

藤枝市より 約800円の助成※ があります。

大腸がん検診(便検査)は個人診療の場合、1220円程度かかる検査ですが、40歳以上の方(昭和60年4月1日までに生まれた方)が市の検診を受けると、市から約800円の助成を受けていることになります。(自己負担420円)

検査費用
約1,220円

助成金
ー約800円

自己負担金
420円

※現金が支給されるわけではありません。

今年度の受診期限は、
令和7年1月17日

例年、受診期限が近付くと大変混み合います。
お早めにご予約・ご受診ください。

大腸がん検診の流れ

1. 健康推進課から受診券を取り寄せる

既に受診券と検査キットをお持ちの方は
必要ありません。



2. 自宅で便を2日間採取する



3. 検査容器と受診券を検診可能日に 提出する



4. 検査の結果※を確認する

約4週間程で結果が出ます。検査結果を確認
してください。

「要精密検査」という結果が出た場合は、
必ず医療機関で精密検査を受けてください。

精密検査の第一選択は全大腸内視鏡検査です。

※ 検診は自治体と、各医療機関が連携して行っています。精密検査の結果は関係機関で共有され、市区町村へと報告されます。

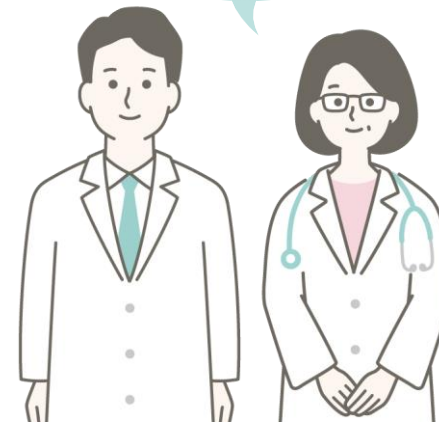
藤枝市健康推進課(保健センター)

〒426-0078 藤枝市南駿河台1-14-1

TEL 054-645-1111 FAX 054-645-2122

大腸がん
検診の
お知らせ

大事な検診、
必ず受けてください



テレビ番組のご案内

がん検診受診率向上〈希望の虹プロジェクト〉
静岡社会健康医学大学院大学 溝田友里准教授が制作に協力!

NHK あしたが変わるトリセツショー
「がんのトリセツSP」(仮)

2024年10月17日(木) 19:30~放送予定

藤枝市も参加しています



専門医に聞きました。

大腸がんについて、3つのポイント

POINT
01

「早く見つけて、早く治す」

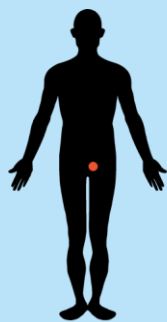
ことが大切。早期のうちに治療すれば

95%以上が治癒します。^{※1}

大腸がんは、早期で発見すれば、多くの場合負担の少ない内視鏡での手術で治療が可能です。

入院は2～3日、または必要ない方もいらっしゃいます。大腸がんの発見と治療は、早ければ早いほど負担は少なく済みます。しかし、進行してがんが肺などに遠隔転移した後に発見すると、生存率は大きく下がってしまいます。

早期発見した場合（期）



5年相対生存率 99.1%

早期発見できなかった場合（期）



5年相対生存率 22.9%

※1 ここでは「治る（＝治癒）」とは、診断時からの5年相対生存率です。

相対生存率は、がん以外の原因で亡くなる人の影響を除いた数値です。

出典：全がん協加盟施設における5年生存率（2010～2012年診断例）

このリーフレットは、がん検診受診率向上く希望の虹プロジェクトが作成しました。

POINT
02

「自宅で簡単にできる」

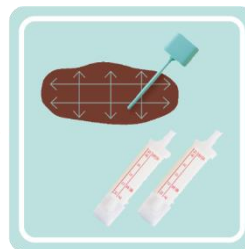
大腸がん検診は便検査です。^{※2}

大腸がん検診は自宅で簡単にできる便検査です。内視鏡ではないですよ。

「大腸がん検査って、お尻からカメラ入れるやつでしょ」って誤解してる方多いです。最初の大腸がん検診は自宅で簡単にできる検便です。トイレで便を2日間採取して医療機関に提出するだけ。それで異常が見つかった場合のみ、医療機関で内視鏡の検査をするんですよ。



検査キット



容器のフタについた棒で便の表面を採取

注）痔の方もお受けください。現在明らかな出血や痛みがある場合は時期をずらして受けることをおすすめしますが、そのような症状がない場合は検査結果にはほぼ影響がありません。

※2 検診では、がんでないのに「要精密検査」と判定される場合や、がんがあるのに見つけられない場合もあります。

POINT
03

ほとんどの大腸がんは早期のうちは

「自覚症状がありません」

みなさん「血便がでたら」とか「異常を感じたら」病院に行こうっておっしゃるんですが、大腸がんは、早期には自覚症状がないんです。

日本では毎年約15万人が大腸がんにかかり^{※3}5万人が命を落としています。^{※4}早期には自覚症状がないので「異常を感じたら」では、手遅れになる場合があります。検診は毎年定期的に受けてください。もちろん、血便、腹痛、便の性状や回数が変化した、などの症状がある場合は次の検診を待たずに病院に行きましょう。

大腸がんにかかっている人が増加しており、女性の部位別がん死亡数第1位。男性でも肺がん・胃がんに次いで死亡者数が多いです。^{※4} 検診を受けることでがんによる死亡リスクが減少します。命を守るため、大腸がん検診を必ず受けてください。



※3 出典：国立がん研究センターがん情報サービス「最新がん統計」（全国がん登録、2018年）

※4 出典：国立がん研究センターがん情報サービス「最新がん統計」人口動態統計（2019年）